

キボウフウというセリ科の多年草を刻み、煙草のよう^{きみ}^{たばこ}に服用します。目の病にはシオンというキク科の多年草を水に浸して用います。産後の血の道にはツリガネニンジンかマメ科のサンペンズを、子どもの口の中のできものにはハマナスを使います。胃の急激な痛みにはオタネニンジン、胸の痛みにはヤマシャクヤクの根を、腫物の吸出しにはユリ科のマイヅルソウを唾で濡らして当てておきます。梅毒にはマンネンスギ、胸骨の痛みにはシダ植物のイワオモダカやカツベラソウ、腹痛にはヨモギ、寒気を払うのはコブシやイワスゲ、沼草、鼻血にはバラ科の多年草スイヨウバイ。この他にも薬草にはイケマ、トウカママフ、ショウマ、



サンペンズ

別名カワラケツメイと呼ばれ、薬用茶として用いられる。

2月27日

快晴。出発して少し行くと上川のアイヌの舟が10艘余り岸に引上げられているのに出会いました。どうしたことかと聞いてみると、「去年の冬、浜から夏の仕事を終えて石狩から帰つて来る時に、川が凍つてしまつて舟をこぐ櫂も凍り付いて重くなり、時々鉈で氷を割りながらようやくここまで進んできたのですが、寒さが益々厳しくなり、舟に掛かるしぶきもすぐさま凍り付いてしまう有様で、ここから先へ川を上ることは無理だと思い、舟を岸へ引き上げて、荷物はそれぞれが背負つて上川まで帰つたのです」と話します。「それなら凍る前に川を上れば良かったのではないか」と